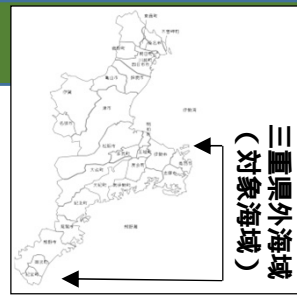


三重県外海域藻場ビジョンの概要



- 鳥羽市以南の三重県外海域では多様な藻場が広く分布していましたが、近年、黒潮大蛇行による海水温の上昇等の海域環境の変化やそれに伴う植食性動物の摂餌圧の増加等により、藻場面積が減少しています。
- 本ビジョンでは、当海域における藻場の衰退要因や海域環境の情報を基に、海域全体のハード・ソフト対策が一体となった実効性のある効率的な藻場・干潟の保全・創造に向けた行動計画を策定しました。また、藻場による二酸化炭素の吸収は、地球温暖化対策としても注目されており、本ビジョンの取組を通じて、多様な主体の参画を得ながらカーボンニュートラルの実現にも貢献していきます。

1. 藻場を取り巻く諸条件

- 藻場に影響を与える要因として、水温、照度、流速、食害生物等の情報を整理



アラメ・カジメ場 ガラモ場 アマモ場

2. 藻場の現況

- 藻場面積は、平成22年の4,943haから令和3年の955haへと約10年で1/5に減少

- 市町ごとの藻場の現況を整理

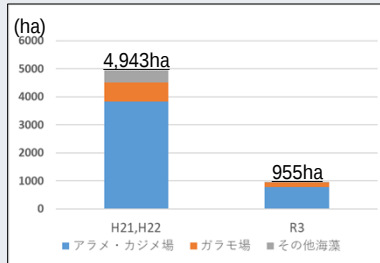


図1. 藻場面積の増減

図中の数値は合計面積

3. 課題と今後の取組方向

(1) 鳥羽市～志摩市大王崎以北 (藻場が比較的維持されている海域)

- 【課題】藻場の保全と持続的利用
- 【取組】採取の自主規制（保護区の設定など）
天然資源への依存度低減（藻類養殖）

(2) 志摩市大王崎以南～紀宝町 (磯焼けが進行している海域)

- 【課題】大学や市町等との連携による磯焼け対策
- 【取組】効果的な藻場造成
ウニ類・魚類等の食害対策（駆除・保護）
多様な主体との連携による取組

4. 藻場保全・創造に向けた行動計画

(1) 藻場の保全・創造対策

ハード対策

- 藻場造成（海藻の着定基質の設置）



ソフト対策

- 水産多面的機能発揮対策事業を活用した藻場の保全活動の推進



(2) 検討・実施体制

- 県、市町、漁業者を構成メンバーとする「三重県干潟・藻場等沿岸漁場整備保全懇談会」において、ハード対策とソフト対策の進捗状況等を共有し、検証・評価を実施

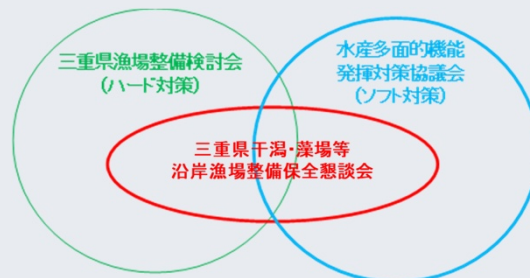


図2. 検討・実施体制

(3) 長期目標

- ハード対策とソフト対策により増加する藻場面積の目標値

表1. 長期目標

現状の藻場面積 (令和3年度)	趨勢値 令和8年度 (5年後)	中間目標値	長期目標値
		令和8年度(5年後)	令和13年度(10年後)
955 ha	875 ha	983 ha (ハード対策: 12 ha) (ソフト対策: 96 ha)	997 ha (ハード対策: 26 ha) (ソフト対策: 96 ha)

趨勢値は、藻場の保全活動の面積80haが維持されないと仮定
目標値は、趨勢値にハード対策とソフト対策の面積を加算

(4) 対象事業

表2. ハード対策の概要

事業名	地区名	事業主体	事業内容・目標	実施予定年度
水産環境整備事業	三重保全三期	県	藻場造成 26 ha	令和4年度～ 令和13年度

表3. ソフト対策の概要

事業名	地区名	事業主体	事業内容・目標	実施予定年度
水産資源を育む水産環境保全・創造事業	三重保全三期	県	【磯焼け対策】 16工区 モニタリング 母藻の設置 種苗投入 食害生物の駆除 等	令和6年度～ 令和16年度
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（および海洋環境に対応した漁場保全緊急対策事業）	鳥羽市 志摩市 南伊勢町 大紀町 紀北町 尾鷲市 熊野市 御浜町 紀宝町	三重県水産多面的機能対策協議会 各活動組織	【藻場の保全活動】 96 ha (活動面積80 ha) (波及面積16 ha) *種の供給による波及 モニタリング 母藻の設置 海藻の種苗投入 食害生物の駆除 等	平成23年度～ 継続